



# 年頭のごあいさつ

松江保護観察所 所長 山本 隆 宏

新年明けましておめでとうございます。

雲南地区保護司会の皆さまには平素から更生保護事業に御尽力を賜り深く感謝申し上げます。また、雲南市・飯南町・奥出雲町を始め関係機関・団体の皆さまには多大な御支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度、再犯防止推進法が施行されました。この法律は国・地方・民間の三者が連携し、地域の実情に沿った再犯防止施策を進め、犯罪を繰り返す人々をそこから脱却させ、もって安全・安心な社会を築こうとするものです。今後再犯防止にどう取り組むかを市や町において個々に検討いただくこととなります。

ところで、関係各位の御尽力により当地域の保護観察係属件数ごく少数にとどまっているように、犯罪や対象者の傾向は地域によって様々です。再犯防止の取組もこれから地域の特性やニーズを踏まえる必要があります。どんな地域社会を実現しようとするか、その方向性が

異なれば自ずと再犯防止施策も異なってきました。この点において、地域で更生保護活動に取り組む保護司の皆さまの意見や知見は、他に代えようのない意義の大きいものであると言えます。保護司として地域住民として、実践に基づく提言を積極的に投げかけていただき、施策に反映願えるよう、保護観察所も役割を果たしてまいりたいと考えています。

本年が、実りある良い一年になりますよう、引き続きの御協力をよろしく願います。

## 表紙の写真

### 「優雅に舞うコウノトリ」

雲南市春殖地区で産卵・孵化したコウノトリのヒナは、事情があり兵庫県立コウノトリ郷公園にて飼育されました。その後無事成長したことから、平成二十九年七月十二日、生まれたこの地で放鳥されました。

撮影者 藤原静雄 保護司

# 受賞おめでとうございます

法務大臣  
表彰

## 法務大臣表彰を受けて

雲南市大東町 松田 勉

十一月十五日、松江市で開催された平成二十九年度鳥根県更生保護事業関係者顕彰式典におきまして、法務大臣表彰を受けこれまでの活動を反省しつつ保護司活動の重責を感じているところでございます。これもひとえに保護観察所の皆様雲南地区保護司会の皆様のご指導ご鞭撻の賜物と感謝に堪えません。

平成十二年に保護司の委嘱を受けて以来環境調整や保護観察を担当し、その都度そこに至った経緯の問題や生活実態に触れてきました。これからの生き方をともに考える中で、容易に解決できない健全な心身の問題に直面し、幾度となく切ない想いと、自らの非力さに落胆することばかりでした。そうした中で、地域の奉仕活動とともに参加し、その後も積極的に参加されている姿に触れ

たときは内心晴れがましい気持ちになり、今までその活動が続いていることに喜びを感じています。

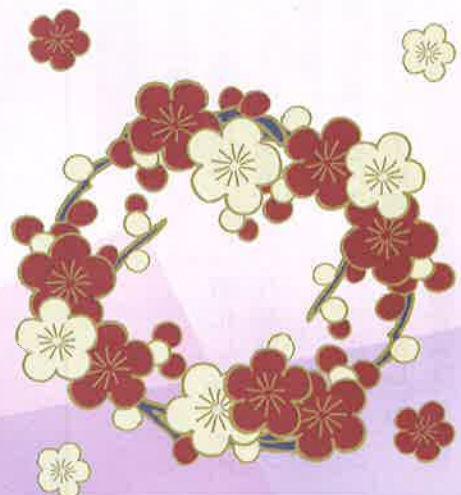
日ごろから更生保護活動の中で犯罪や非行の問題について、社会と地域の力によって問題を起こさない環境づくり、また起こった場合に更生に対する前向きな関心と協力関係作りという大きな課題に微力ながら取り組んでいきたいと心を新たにしたところです。

最近の複雑な社会風潮の中で、更生保護、とりわけ保護司活動に関する理解や関心は高いとは言えないかもしれませんが、私たちの保護司会活動をできるだけ保護司の責務として地域社会に理解と関心が広まっていくよう願ってやみません。



平成29年度鳥根県更生保護事業関係者顕彰式典

顕彰式典（前列左 松田 勉氏）平成29年11月15日





# 全国保護司連盟理事長表彰を受賞して

雲南市掛合町 永瀬 晃

平成二十九年年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典において全国保護司連盟理事長表彰の栄に浴しました。誠に光栄なことと感謝していただきます。

これも偏に保護観察所を始め関係者の皆様のおかげと心より感謝致しております。

平成十四年六月に任命を受け保護司活動に入りました。保護司のお話をいただいた時、地域は平和な所で事件などありません、名前を持っていただけで大丈夫とお話を聞き、大船に乗った気持ちでいました。しかし、それは通用しませんでした。

保護観察所で研修を受けたとはいえ、まだ経験も浅く保護司としての覚悟も定まらない時に、対象者と向き合う事になり、緊張が高まった事を記憶しています。

保護観察で思うことは、立派に立ち直って欲しい気持ちで向き合い、期間が終了しても、こ

れで良かったかと反省の連続です。

以前のように、子供から大人まで賑やかに暮らす地域ではなくなり、お互いが声を掛け合う機会も少なくなりました。

このような時代だから、犯罪や非行の無い「社会を明るくする運動」に一層地域と一体となった活動が必要と感じます。

「再犯防止推進法」の施行により、国と民間そして地方公共団体と連携を図ることは無論のこと、今は沢山の地域自主組織があり、子供、親子、高齢者の取組まで多様な活動がされております。私たちの活動に加えて、こうした組織に、ご協力いただければ、私たちの目標に大きく近づき気がします。

犯罪・非行をなくすことは永遠のテーマです。これからの微力ながら更生保護活動を続けたいと思います。

## 平成29年度更生保護事業関係者顕彰

(敬称略)

表彰種別	被表彰者氏名		
法務大臣表彰	松田 勉		
全国保護司連盟理事長表彰	永瀬 晃		
中国地方更生保護委員会委員長表彰	高橋 浩文		
中国地方保護司連盟会長表彰	森合 俊雄	千葉 哲之	
島根県保護司会連合会会長表彰	岡田 礼子	清水 寛	立石 典夫
	伊藤志津江		

第67回社会を明るくする運動

作文コンテスト入賞作品

島根県更生保護女性連盟会長賞

心をつなぐ言葉

雲南市立木次中学校 三年 小林 愛実

中学校の部



は、このあいさつがあるからだと思っています。

学校に着いてから、私は最初、同じ学年の子に会うことが多いです。その時は互いに

「おはよう。」

と言います。ところが、普段あまり話さない人や親しくない人に会うと、「突然あいさつなんかされたら、引かれるんじゃないか。」と不安に思い、無言で通り過ぎてしまうことがあります。その後は、何だかモヤモヤした気持ちになり、自分が自分でないような変な感じがします。このように私は、子供やお年寄りさん、保護者の方など地域の人に対していつもあいさつしているのに、同世代の人に対しては自然に言える時とためらう時があります。

そもそも、どうしてあいさつをするのでしょうか。よく考えてみました。

私が中学生になってから、家族と夕飯を食べる時に、よく

「おはようございます。」

今朝も、私は地域の方とあいさつを交わし登校しました。あいさつをすること、それを当たり前だと感じている人、やろうと思っていても言わない人、あいさつなんて考えてない人……色々な人が社会にはいると思います。あいさつとは、どうしてするのでしょうか。あいさつは、普段の生活とどのように関わっているのでしょうか。

私は中学校に登校する時、十数人もの地域の方に会います。

「おはようございます。」

と言うと、笑顔で

「おはよう。」

と返してくださいます。また、「行ってらっしゃい。」「今日は蒸し暑いね」など、自転車に乗っていても、一言声をかけてくださる方や、私よりも大きい声で返してくださる方もおられます。その後で、いつも私は、自然と顔がニヤけます。そして、元気が出てきます。時には、学校に行きたくないとか、疲れるなどかと思う日もありますが、毎日休まず学校に通えているの

「今日、〇〇さんに会ったよ。その時、小林さんとこの子供さんは、いつも大きい声であいさつしてごさいけんうれいよ、って言わいたよ。」

という話を聞きます。正直、驚きました。たったの一言が、地域の方を喜ばせることができる、思っていなかったからです。

また、先月、学校で面接がありました。初対面の方と接するのは、とても緊張しました。でも、この体験を通して、入退室や椅子に座ったり立ったりする時のあいさつは、礼儀、そして自分の気持ちを伝えるためにもとても大切だと感じました。普段している何気ないあいさつは、お互いを元気にさせる、気持ち良くさせているという共通点を見つけることができました。今までの様々な体験を通して、あいさつは人と人をつなぐものだと知りました。みなさんは、普段、進んであいさつをしていますか。学校や職場の中だけでなく、外へ出ても、また家族との間でも、大切だと思います。これから私は、家族・友達・先生・地域の方など、誰にでも自分からあいさつをしたいです。同世代の人にも、進んで言いたいと思います。お互いが毎日気持ち良く過ごせるよう、心のこもったあいさつを心がけていきたいです。

### 島根県BBS連盟会長賞

## 私と相手のふつう

雲南市立吉田中学校 二年 山田 理さと 水み

『ふつう』とはいったい何でしょうか。

皆さんは、そんなことを考えたことがありますか。私は、あるお医者さんとの出会いから、大切なことに気付かされました。

それは、一学期、睡眠について学習したときのことです。講師のお医者さんが、「人によって『ふつう』の基準は違います。自分の『ふつう』は他人の『ふつう』と同じものではありません。」と話されました。そして、ひとつの例を紹介されました。

ある患者さんが、糖尿病の検査にやってきたそうです。見るからに肥満体型です。先生が「ふだんどんな生活を送っていますか」と尋ねると、その患者さんは、

「『ふつう』にすごしています。一日、千歩は歩いていきます。」と自慢げに答えたそうです。

お医者さんは、それでは少ないと思ったそうですが、患者さんにとっては、そういう生活が、『ふつう』だったのです。このように、『ふつ

う』の捉え方は、人によって違うのです。

学校生活でも、同じようなことが言えると思います。気付いていないだけで、自分にとっては『ふつう』でも、ほかの人にはそうでないことも多いのかもしれない。たとえば、学校でいじめが起きていたとします。いじめられている人は、「かわっている」とか『気持ち悪い』とか、言われているかもしれない。しかし、その「かわっている」とか「気持ち悪い」とかはだれが決めたのでしょうか。

いじめる人は、「みんなそう思っている。だから『ふつう』のことだ。」と言うかもしれません。

では、その『ふつう』とは、みんなの価値観について多数決をして、多かった方が『ふつう』になるのでしょうか。

私も似たような経験をしたことがあります。その時の原因は、私が「なまいき」だったからだと思います。自分には、その気は全くなかつ

たのですが、私をグループに入れられないようにした人から見ると、気に入らなかつたのだと思います。

この経験から私は、自分と相手の『ふつう』の違いを理解することが大切だと学びました。みんなの『ふつう』が同じものなら「いじめ」なんておこることはありません。「ふつう」がそれぞれ違うから、相手の『ふつう』をなかなか受け入れることができないのではないのでしょうか。だから、誤解が生じ、ケンカが起き、最悪の場合は、いじめへと発展するのです。

私には、みなさんに提案があります。自分の『ふつう』を周りの人に押し付けなくてほしいということ。相手の価値観を受け入れながら、お互いに相手と思う『ふつう』を尊敬し合えたら、きつといじめのない、温かな人間関係が生まれるはずです。

実際に私も『ふつう』について考えるようになってから、相手にとっての『ふつう』を常に頭の中に置くようになりました。すると、今まで「何で?」「どうしてそんなことするの」と腹を立てたり、苛立ったりすることも減ってきました。受け入れにくかつた友だちの言動も「個性なんだ」と受け止められるようにもなりました。

私の中で変わったのは、それだけではありません。自分についても考えるようになってきま

した。

「あなたのいいところは何ですか。」よくある質問です。私は、この質問が苦手です。それは、自分の短所はすぐに見つけることができるのに、長所を見つけることができないからです。それに、「理水さんのいいところは、何事にも一生懸命とりくむところだよ」などと言われても、「本当に?」と素直に認めることができませません。それどころか、「もっとすごい人はいっぱいいるのに」と、どうしても自分とまわりを比べてしまうのです。比べてしまうと、ますます自分の良さに目を向けることができせん。これまで、私は、そんな自分を『ふつう』だと思っていました。

でも、「人によって『ふつう』の基準は違います。」という言葉と出合うことで、自分の良さを見つけないという気持ちにもなってきました。

どうやって自分の長所を見つけるか。それが今の私の課題です。まずは、自分の良さも足りないところも受け入れることが、自分のことを第三者目線で考えられるようになる第一歩だと思います。

これから、自分の良さを探しながら、いろんな『ふつう』を受け入れられる自分になりたいと思います。

みなさんも『ふつう』について、考えてみて

はどうでしょうか。今までとは違う何かが見えてくるはず。そして、きつと新しい自分に出会えるはず。



# 新 旧 保 護 司 紹 介

## 退任保護司

発令年月日	氏 名	住 所
平成29年5月31日	まつ 浦 昇 松 浦 昇	奥出雲町中村
平成29年11月30日	にっ た ゆう し 新 田 裕 至	雲南市大東町下久野
	かど わき まさる 門 脇 勝	雲南市大東町山田
	わた なべ さち こ 渡 部 幸 子	雲南市木次町上熊谷
	たか はし へい し 高 橋 平 治	雲南市三刀屋町三刀屋

## 新任保護司

発令年月日	氏 名	住 所
平成29年6月1日	ふじ はら しげる 藤 原 茂	雲南市大東町飯田
	あ べ しげ とし 安 部 茂 寿	奥出雲町稲原
	と や おひろ こ 鳥屋 尾 寛 子	雲南市三刀屋町里坊
平成29年12月1日	の つ たか のり 野 津 位 登	雲南市大東町下久野
	さ さ き むつ み 佐々木 睦 美	雲南市大東町山田
	せの お かず あき 妹 尾 和 明	雲南市木次町西日登
	くすのき まさ と 楠 縁 人	雲南市三刀屋町三刀屋

### 退任のごあいさつ

雲南市三刀屋町三刀屋

高 橋 平 治

昭和六十二年、前任者の推薦を受けて保護司を拝命して以来三十年、何の知識もないまま懸命に取り組んで来ました。

対象者を持つ度に、お互いの立場を考えながら更生に向け共に考え努力を重ねて来ました。

その度に私自身も大きく成長させられて来た様に思います。平成二十六年には藍綬褒章の栄に浴し私の人生にとって何ものにも変えがたい財産を頂きました。この間ご指導ご協力を頂きました関係機関、各位に対し厚くお礼申し上げます。今後は犯罪のない明るい社会づくりのために微力を捧る所存でございます。

長い間有難うございました。



# 平成29年度 社会を明るくする運動 メッセージ伝達式

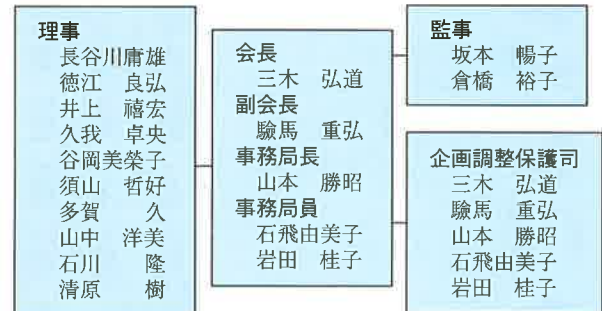
平成29年7月3日



速水市長に安倍内閣総理大臣メッセージを伝達する三木会長と関係者（雲南市役所）

## 雲南地区保護司会

### 組織図



### 保護司

保護司数52名 (H 30. 2. 1現在)

<b>【雲南市】</b> <b>(大東町)</b> ●井上 禎宏 三木 弘道 加本 恂二 松田 勉 土谷 文江 岩田 桂子 藤原 茂 野津 位登 佐々木 睦美 <b>(加茂町)</b> ●久我 卓央 坪倉 充明 岡田 礼子 <b>(木次町)</b> ●谷岡美 榮子 村上 秀道 駿馬 重弘 坂本 静雄 藤原 幸男 佐藤 静代 妹尾 和明	<b>(三刀屋町)</b> ●須山 哲好 陶山 隆樹 清水 寛 陶山 頼子 鳥屋尾 寛子 楠 縁人 <b>(吉田町)</b> ●多賀 久 堀江 三智江 <b>(掛合町)</b> ●山中 洋美 落合 慧 永瀬 晃 松村 千弘 石飛由美子 <b>【奥出雲町】</b> <b>(仁多)</b> ●長谷川庸雄 山本 勝昭 森合 俊雄 千葉 哲之 川本 晃代	楠 京子 立石 典夫 <b>(横田)</b> ●徳江 良弘 高松 千草 安部 陽子 若月 薫 安部 茂寿 <b>【飯南町】</b> <b>(頓原)</b> ●石川 隆 熊谷 高暢 伊藤 志津江 <b>(赤来)</b> ●清原 樹 倉橋 裕子 高橋 浩文 永田 一博 ●印は支部長
--	--	---

### 編集後記

保護司会だより「こころ」が平成二十年度の第一号発行以来、この度で第十五号を発行する運びとなりました。これもひとえに松江保護観察所をはじめ雲南地区の保護司の皆さん、そして関係各位のご尽力の賜物と感謝しております。

これからも、この保護司会だより「こ

ころ」を通して犯罪や非行のない、安全・安心な地域づくりを目指して情報発信してまいりたいと思います。

(藤原)

- 編集委員長 藤原静雄
- 編集委員 石川 隆
- 編集委員 永瀬 晃
- 若月 薫
- 岡田礼子
- 楠 京子